

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301214		
法人名	社会福祉法人 加茂光陽会		
事業所名	グループホーム 杉宮		
所在地	岡山県津山市杉宮820-1		
自己評価作成日	平成30年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成30年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・建物は森林や田畑に囲まれており、またホールの窓やテラスからは池に泳ぐ鳥の親子などを見て楽しむことができる。また 2つのユニットをつなぐ広いテラスに出て季節の花々を眺めたり、風を感じながらご利用者同士や職員とのほのぼのとした交流を図ることができる。ゆったりとした時間の中で、個々の興味のあることを一緒に行ったり、話を聞いたり、寄り添える支援ができるように努力している。
 ・ご利用者家族や地域の方から採れたての野菜が届けられ、新鮮で旬の食材を使用したものが食卓に上がることが多い。ご利用者との会話などにより、地域ならではの昔からの季節に応じた献立作りができるように配慮している。また地元の病院に受診したり、地域のお店に買い物に出かけたり、食事に行ったりすることで昔なじみの方に会い、話が弾みとても良い笑顔が見られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

両ユニットを結ぶ広いテラスから「こんにちは」と、ちょっと遊びに来たよという感じで隣ユニットの男性利用者が入ってくると、すかさず「いらっしゃい」と利用者も職員も明るい声と笑顔で出迎える。こんな光景は毎日の事らしく、自由に行き来して利用者同士で楽しく交流している。そして職員の考案で新しく購入したパラソルとベンチがテラスの中央に置かれ、活動や憩いの場となっており、恵まれた環境にある。また、開設以来三食共職員手作りの食事はこのホームの伝統になっており、職員と利用者で一緒に下拵えをしたり、食べながら和やかに楽しい時間を共有してコミュニケーションもよく取れている。同じテーブルで昼食を共にしたAさんは「この食事は美味しからう」「幸せじゃ」と自慢話をしてくれた。地域の中に出て行くことを目標にしていると話してくれた両管理者の息もピッタリと合い、日々の努力の成果も上がり地域交流の幅も広がっていると聞いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度初めに、法人理念を念頭において、事業所理念を改めて職員全員で考えた。職員だけでなくご利用者にも見える場所に掲示することで実践の意識を高めている。	法人理念を基本としながら、ホームの理念も掲げ職員間で共有・実践してきたが、個々を大切にしながら利用者の個性に合ったケアをしていきたいとの思いで、ここで新たな理念を作り、利用者・職員が共に笑顔で過ごせる暮らしを目指して頑張っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行う納涼祭には地域の子どもたちと保護者が、また秋祭りには子ども神輿がホームに来る。また、複数の地域ボランティアによる語り部や歌、楽器の生演奏、踊り、紙芝居等の回数が増えている。	地域の中に出て行くことを常日頃から目標にしており、保育園児と触れ合いを持ったり、以前より地域の人のホームへの訪問も増えてきた。ボランティアも不定期ではあるが徐々に訪問回数が増えており、地域に開かれたホームとして地域交流も拡がりを見せつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々に働きかけている。避難訓練、救急対応の訓練に声を掛けて地域の方にも来て頂いてその様子を見ていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の行事や、取り組み状況についてお伝えしていく中で、出された意見に関して、出来ることから実践していくようにしている。行事を見てもらう機会を作った。地域の状況も聞き情報交換を行っている。	定期的に開催している運営推進会議には行政・地域・家族等の参加があり活動報告や意見交換等をして有意義な会議を行なっている。行事と同日に開催する時には多くの家族の参加がある。議事録を作成しているが、参加者との意見交換の記録が少ないと感じる。	運営や活動報告はもちろんの事であるが、ホームの実情やリスク面を理解してもらう事時には必要な事であり、ヒヤリ・ハット報告をしてみてもどうか。又、対応や防止の案等、参加者から意見を聞いてみるのも良いと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括ケア会議への出席や運営推進会議をはじめとして、随時、連絡や相談を行っている。津山市が推進している『こけなひからだ講座』を依頼し指導を受けている。	運営推進会議には市の担当者の参加があり、お互いに情報交換等をしてホームの実情をよく理解してもらっているし、市の介護相談員の訪問が定期的にあるのも有り難い。何かあると市の担当者に相談をしてその都度、アドバイスや指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人間としての尊厳を守ることを最優先として考えることを徹底すると共に、その為の環境をどのように整備するか、様々な工夫について話し合うようにしている。	日頃から身体拘束をしないケアを心がけ職員間にもよく浸透しているが、新たに身体拘束廃止・虐待防止委員会を設けたり、職員間でスピーチロックの研修会等をして、身体拘束に関する理解と認識の向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などの機会を利用し、『虐待』の内容を伝え、また『不適切な対応』についても話をしたうえで日頃の支援を振り返るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の状況を十分に把握すると共に、研修会や勉強会に職員を派遣して資質の向上を図るようにしている。また、行政機関や関係者との連携を十分に取り、適切な支援ができるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が説明を行い、またその後においてもその都度相談を受け対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、日常の話の中で出た意見や要望に関して、可能な限り反映できるように努めている。話やすい雰囲気づくりを大切にしている。	利用者の担当制があり、各ユニット毎のお便りを発行して、日頃の生活の様子や状況報告をしている。納涼祭等のホームの行事に家族の参加があり、アンケートをして意見や要望を運営に活かしている。	家族へのお便りの担当者のコメントにもう一工夫欲しい。例えば、何気ない日常のひとコマでも良いし、利用者の発した言葉や思いがけないエピソード等を盛り込むと、読んだ家族に喜ばれると思う。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談や必要に応じた面談、日常の会話の中で意見を出しやすいように配慮したり、ユニット会議の用紙に書けるようにし、職員の意見や思いをくみ取るようにしている。出来ることから実施。	課題となっていた職員の補充も1年ぶりに出来、現在はマンパワーも充実していると聞いた。職員の提案で共有スペースに「畳」「パラソル」「ベンチ」等を購入した例もある。管理者を通して法人上層部が意見や要望をよく吸い上げてくれる体制があり、ホームの運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談と、必要に応じて話し合いの場を持ちながら職員の状況把握を行い、環境改善・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月目標を勉強会と連動させ、その資料作成を職員全員が交代で担当する。外部研修は職員の希望と必要性を考慮し参加。年2回の法人全体での研修。そして今も課題を職員全員で取り組み中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会などの参加により、情報交換の出来る機会を設けている。指示による研修とともに様々な研修の情報を提示し、希望の研修や勉強会に自主的に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問などにより、ご家族とともに、もしくはご本人一人で、話し合いの場を持ち、まずは安心できる環境の中でゆっくりと思いを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所内での面談や、自宅訪問で実際の環境の中で話を聞くことにより、困りごとや不安なことを話しやすいようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは話をしっかりと聞いて受け止めた上で、選択肢の提供もしながら、より良いと思われる方法をお伝えできるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事の一部を一緒に行うようにしている。また人生の先輩として、今までの経験を聞いてそれを参考に実施してみるということもしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会には気軽に来て頂きたい事、可能な範囲で少しの外出や外泊などをお勧めしている。その時々の様子をお伝えし、一緒に家族や本人の思いを話し合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からのかかりつけの病院に定期受診することで、地域の方々・知り合いの方々との交流が持てる。など可能なところでの支援に努めている。	近所の馴染みの「うどん屋」に行き、店の人や馴染み客に声をかけてもらって喜んだり、涙を流しながら昔話を懐かしく語り合う場面もあった。又、昔からのかかりつけの病院受診の帰途に、本人の希望で地元のスーパーで買い物をして帰った事もある等、それぞれの馴染みの場所や関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い2・3人でソファで会話を楽しむ場面あり、一人でゆっくり過ごす場面あり、一緒にたくさんの洗濯物をたたむ、マイペースで一人でたたむ方、みんなで一緒にお茶を飲む場面など、工夫するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時に、その後も、様子を見に伺うこととお伝えし、可能な限り伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、言葉や表情、態度や行動から垣間見える思いを感じ取るように努めている。実現可能なことは出来るだけ実施していきたい。	日常の会話を通して、利用者個々の思いや希望を汲み取るように心がけており、コミュニケーションを大切にしている。席替えを希望する人には配置を変える等、その人の思いに応え、職員は利用者の本心や意向を引き出す言葉かけの工夫にも努めている。	利用者一人ひとりの生活歴(人生歴)はその人を理解し、コミュニケーションを図るツールとしてとても重要と思う。これからでもいいので本人・家族から聞き取りをした内容を記録に残し、フェイスシートを充実させて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方の情報を収集している。日常の会話の中でもくみ取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の支援記録に日々の様子を記録していくことで、状態の維持・変化が残される。それらを共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の職員同士の情報交換や支援記録を参考にモニタリングを行い、ケア会議などで話し合うようにしている。また医療に関しては主治医や看護師に相談。家族には面会時や電話により話をするようにしている。	本人・家族の意向を基に、職員間で話し合いながらケアプランを作成している。プランに対する実践状況の評価を日々の申し送りの中で職員間で話し合ったり、介護計画実施確認表を参考にしながら利用者個々のニーズを掘り起して次回のプランにつなげている。	モニタリングとしての記録が乏しく、プランに対する評価がどうようになされ、次回のプランに活かされているのか、今一つ明確でないで、3ヶ月或いは6ヶ月毎のモニタリング表を作成するのも良い。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	書く技術のスキルアップは課題であるが、日々の様子が書きやすくなりやすくなっている。これをもとに情報共有し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の思いに出来るだけ添える様に職員のスキルアップを図り、工夫していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のこども園との交流・地域の子供会の訪問地元文化祭への参加・語り部をはじめとするボランティアの方々の訪問・近所の野菜市場への買い出し、などの機会を増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの馴染みのかかりつけ医との関係を継続している。	定期的なかかりつけ医の往診と週1回の訪問看護がある。希望者のみ訪問歯科もあり、利用している人もいると聞いた。受診の付き添いは原則家族にお願いしているが、難しい場合は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護により、健康チェックを受け、相談したり、助言を受ける。これ以外にも必要に応じて電話で相談をし助言を受けることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応は家族と職員で行い、入院までの経緯、日常の様子等の情報を医療機関へ提供する。入院中は家族に様子を尋ねたり、直接電話を掛けたり、面会により病院関係者と情報交換を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについての話は、入居前の相談でも聞かれることが多い。終末期ケアは職員全員で研修を行い、ご家族と主治医の協力により取り組んでいくことになっている。今後具体的な方法について整理していく。	開設して十数年、法人に特養があるので、これまでホームで看取った事例はないが、「ここで最期まで」という家族の希望もあり、今年の夏には職員間で「看取りの勉強会」を開いた。看取りに関しては不安も大きいですが、特養での看取りの経験のある職員もいるので、今後も研修を重ねていきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、研修の機会を持っている。事故発生時には再発防止の対応策を、職員同志意見を出し合い、法人本部職員の助言も受け検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を行い、避難誘導や初期消火の訓練を行った。地域の町内会長・消防団長との連絡がすぐにとれるようにしており、町内会長から町内の方々への連絡をお願いしている。	消防署立ち会いの下、避難訓練を実施しており、避難訓練の時にはホームの近隣の住人にはお知らせを配布し、町内に回覧を回す等、地域の人の協力もある。緊急時の連絡網や地域との連携もよく取れている。	火災訓練は定期的に行っているが、水害・地震等の災害時対策にも取り組んでみてはどうか。災害指定避難場所への避難経路の確認や地域との協力体制の構築を今一度検討してみるのも良い。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重・プライバシー保護を含む接遇について、会議などで話し合い、対応の方法に配慮するよう努力している。	居室のドアの透明ガラス部分に内側からカーテンをかける等、プライバシーを守る工夫がしてある。日頃から排泄、入浴時の羞恥心に配慮した言葉かけには気をつけており、自尊心を傷つけないように心がけていて、同性介助をしている人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や様子を見て、こちらからも働きかけながら自分の思いを出せる雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にできるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部からの美容師訪問による整髪・顔そりや髭剃りなどの実施(希望者)。御家族と外出し、美容院へ行かれることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好きなものを聞いて、出来るだけ希望に添えるメニューでお祝いしたり、会話の中で出た「食べたい」メニューを作っている。皮むきなどの下準備をご利用者にしてもらっている。	もやしのひげ根取りをしている人、じゃがいもの皮むきを手伝った人等、それぞれに役割分担をして下拵えした野菜を使って職員が手作りした食事は美味しく、「美味しいなあ」という声もよく聞こえてきた。食事をしながら交わす利用者と職員の会話も微笑ましく、楽しい団欒の時間を過ごしていた。	3食、職員の手作りの食事をいただけるホームもだんだん少なくなっている昨今、地域の人や家族が米や野菜の差し入れをしてくれる協力的なホームは本当に希少価値があると思う。この温かい雰囲気をつつまでも守り続けて下さい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態(粗刻み・小刻み)や分量をその方に合わせた物にして、安全に食べやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや仕草を把握し、トイレ誘導、介助を行っている。	トイレに男性便器が設置してあるが、現在4名いる男性利用者も便座に座って排泄するのが基本になっている。布パンツで自立の人は数人、その他の人は紙パンツにパット使用であるが個々の排泄リズムを見ながら、声かけ、誘導して自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として、水分摂取、軽い運動、腹部マッサージ、乳製品摂取等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者とマンツーマンでゆっくりコミュニケーションがとれる機会でもあり、楽しくリラックスしていただけるように、会話等工夫をしている。	車椅子でシャワー浴の人も数人いるが、殆どの方は浴槽を跨いで入浴が出来、冬期は週2回、夏期は週3回午後入浴を基本としている。上手な言い訳をして入浴を拒否する人もいるが、職員の巧みな誘導話術で入ってしまえば喜ばれる人が多いと聞いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や希望に合わせて休めるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はすぐに確認できる場所に置いている。薬の変更があれば、全員で共有し観察を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中での家事、興味のある余暇活動ができるように工夫を重ねている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿うことはなかなか困難ではあるが、少しずつでも出かける機会を増やすように努めている。	外出の機会を増やす事を目標達成計画にも掲げて日々取り組んでいる成果が上がっており、日常的に職員と一緒に買い物に出かけたり、家族の協力を得て外出・外食にも出かけている。周辺は自然豊かな環境であり、四季の景色を楽しみながら散歩等をして気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持、使用の支援に関しては課題である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望、ご家族の状況に応じて対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節毎の花や小物を置いている ホールには、利用者と一緒に作成した壁飾りや、季節に合わせた絵画や写真などを飾っている。食事時には安らぎの音楽を流したり、余暇活動の際は民謡や懐メロなど場面に合わせた曲をかけている。	両ユニットを結ぶ広いテラスから、「こんにちは」と挨拶しながら隣のユニットの男性のAさんが入って来ると、「いらっしゃい」と利用者も職員も笑顔で迎えてくれる。新調したというパラソルの下で椅子やベンチに座り、日光浴やおしゃべり、ティータイム等を楽しんだり、リビングでは畳コーナーを作り、ゆったりと寛げる空間もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の食事場所が落ち着く方、ゆっくりとソファに座り新聞を読んだり、気の合う方と談笑する方、窓際の椅子で外の景色を楽しむ方など、過ごしやすいように工夫している。今年度は畳の空間を作った。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の面談で自宅を訪問した際に部屋を見せていただきそれを参考に居室環境を整える様にしている。家族や自分の写真を飾ったり、家で使用していた馴染みの物を持ってきていただくようにしている。	室内は清潔でシンプルだが、写真や展示してある作品等にそれぞれの個性が感じられ、過ごしやすい環境になっている。殆どの人は日中はリビングで過ごす事が多く、居室は休憩や就寝時に利用している。私達を自分の部屋に招き入れてくれたBさんは、家族の事を嬉しそうに話してくれた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかりやすいように、自分の部屋がわかりやすいように、動線の手すりが使用しやすいようになどの工夫を重ねている。		